



## 「共創セミナー」を開催しました

10月8日(木)に、理数科1年生を対象に、第1回「共創セミナー」をオンラインにより実施しました。株式会社ワイビーエム 技術開発部 開発グループ 大久保博晃 先生に、「地中熱ヒートポンプシステムの研究開発について」と題して、地中熱ヒートポンプシステムの研究開発についての事例紹介などを通して、企業活動における課題発見や課題解決の在り方について話していただきました。

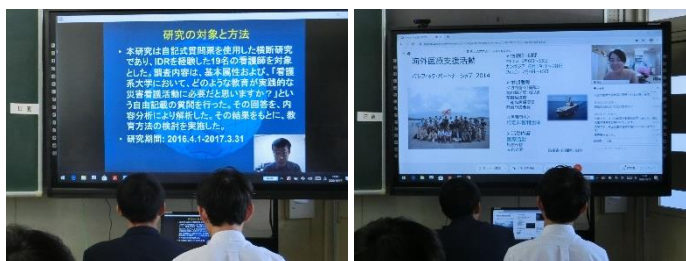


### 生徒の感想

- 「これから課題研究に取り組むとき、今回、先生がおっしゃっていた、当たり前を疑うことや他分野に興味を持つ、目的や状況を意識するということを頭に置きながら活動していきたいと思いました。」
- 「役に立たないと思ったことでも、何か必ず役に立つことがあるので、色々な分野に興味を持ち、他分野から応用することが効率のいい実験につながるのだと思いました。」
- 「研究を行うとき、未知の領域やまだ研究されていない領域を対象とすることを意識しなければいけないことが分かった。新しいことや成功するか分からないことをするのは少し怖い気もするが、講師の先生の研究への姿勢を学んで、自分も色々なことに興味を持って、疑問や課題を見つけて研究したいと思った。」
- 「最近、「SSH研究I」の実験でカビが発生し失敗したばかりだったので、どこがよくなかったのかを考える上で、「当たり前を疑う」ことが大切だと思いました。」

## 「リサーチセミナー」を開催しました

10月17日(土)に、理数科1年生を対象に、第4回「リサーチセミナー」をオンラインにより実施しました。佐賀大学 医学部 看護学科 新地浩一 先生に、「佐賀大学をモデルにした大学や大学院の教育研究システム、教育に関する研究」と題して、災害看護に係る人材育成プログラムの開発をテーマとした研究の事例紹介など、研究課題の見出し方や解決方法について話していただきました。また、同学科 柴山薫 先生に、「看護における実践と研究のつながり」と題して、海外での医療支援活動などのご自身の経験や、切除不能進行膵がん患者のQOLの維持向上をテーマとした研究の事例紹介などを話していただきました。



### 生徒の感想

- 「新地先生は、災害援助の人材育成が課題であると考え、そのために教育プログラムを開発されていた。背景や研究の対象、方法、倫理的配慮、結果と筋道を立てて研究していくことが大切だと分かった。」
- 「研究をするときには、領域を限定し、明確な数値を出して、課題の解決を図ろうとされていた。また、人間を対象とした研究では倫理的配慮が必要であることも分かった。」
- 「柴山先生の海外研修のお話はとても興味深かった。日本にいて、インターネットを使って情報として知っていても、実際に行ってみると、感じたり考えたりすることが全然違って来るのだらうと思った。」
- 「医療は確立されているものと思いがちだったが、分かっていないこともまだ多いことを教わった。自分が興味のある分野を探し、目的をもって課題とすることが大切だと分かった。先生方は、何か役に立たないかという目線で課題を設定されていたと思った。」